

田島弥平について

文政5年(1822年)生、明治31年(1898年)没。

種繭養蚕(蚕の卵を取るための養蚕)が盛んな島村(現・境島村)で生まれた。弥平は父である初代弥兵衛とともに優れた蚕種(蚕の卵)を生産するために実験を重ね、養蚕全般にわたる養蚕理論「清涼育」を完成させた。弥平は清涼育の理論を『養蚕新論』『続養蚕新論』として出版し、全国から養蚕を学びに来た人たちに教えた。

弥平が考案した空気の循環を重視する2階建て、瓦ぶき、やぐら付きの建物は、その後の養蚕農家建築のモデルとなって全国に普及した。「清涼育」を考案し、幕末から明治前半の養蚕業の発展に果たした弥平の功績は大きく、日本に近代化をもたらした人物の一人といえる。

『養蚕新論』について

明治5年(1872年)、田島弥平が著した養蚕書である。田島弥兵衛・弥平父子が考案した清涼育という飼育法の効用の普及のための実践書であり、近代養蚕法の基礎を築いたとして高く評価されている。現在、その版木は田島弥平旧宅に保存されており、一部は田島弥平旧宅案内所で公開している。

市指定重要文化財 養蚕新論版木



横約 40cm×縦約 20cm×厚さ約 3cm

63 枚